

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	メロディアナライズ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験9年 演奏家、作曲家。ゲームBGMのレコーディング、TV番組出演や、TVドラマでの演技指導を行う傍ら、楽曲提供等も行うなど、幅広く活動中。				
授業概要					
業界の動向・流行をとらえながら、キャッチーなメロディラインの分析を行う。 また、その知識を自身のトップライン制作に活用する。					
到達目標					
表現の幅が広い芸術性の高い楽曲の制作ができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	世界のトップチャートと日本のトップチャートの楽曲を比較分析する
【前期】 6～10回目	有名曲のメロディを採譜し、キャッチなメロディ(トップライン)の特徴を探す。
【前期】 11～16回目	メロディ(トップライン)が瞬発的にひらめくためのトレーニングを、鍵盤・歌唱を用いて行う。
【前期】 17～21回目	デジタルテクノロジーと現代音楽の関わりについて考察・研究
【後期】 1～5回目	有名曲のリリックとメロディの関連性および考察
【後期】 6～10回目	既存曲のトラックに独自のトップラインをのせてアレンジする
【後期】 11～15回目	コライト(トラックメイカーとトップライナーの共同制作)実践①
【後期】 16～19回目	コライト(トラックメイカーとトップライナーの共同制作)実践②
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽曲においてメロディラインは顔です。近年のSNS・サブスクリプションの発展によりめまぐるしく変化する楽曲の流行を紐解いていきましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	Track MIX		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験15年                      ジャズサクソ奏者として数々のライブに出演し、ポップスのレコーディングや舞台での演奏も展開。その後独学でクラシックやジャズ等の作曲を習得し、作曲家としても活動を始める。2015年に1stアルバムを全国リリース。また、アーティストや映画等の楽曲のミキシングを担当しており、幅広く活動している。</p>				
授業概要					
<p>音の特性や音響学といった知識や、DAWの使い方や種類、MIXにおいて使用するプラグインの知識や使い方を学ぶ。プロの使用するスピーカーやヘッドフォン、オーディオインターフェイス、マイク、プラグイン等の機材の知識や使い方を学ぶ。</p>					
到達目標					
Logic Pro Xを使用し、自作曲を流通することを想定しMIXの知識を深め実習する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	MIXとは何か 必要性の理解を深める DAWとは何か Logic Proの特性や基本操作
【前期】 6～10回目	MIXの基本 オーディオトラック、MIDIトラック、AUXトラックの違いや使い方について トラックの音量の合わせ方、パンの設定の仕方
【前期】 11～16回目	イコライザー ドラムやベース、ギター、ヴォーカル等の楽器別の設定の仕方
【前期】 17～21回目	コンプレッサー 仕組みや知識、楽器別の設定の仕方 種類、用途
【後期】 1～5回目	リバーブ 効果を理解し、場所に合った空間作り 種類、目的に応じた使い分け
【後期】 6～10回目	サチュレーション/ステムミックス サチュレーター、テープシミュレーター等のMIXの質感を上げるための歪みについて 楽器をステムにまとめて行うバスコンプレッサー等の処理について
【後期】 11～15回目	空間系の設定 ディレイの種類や用途、音の広がりや音の馴染ませ方
【後期】 16～19回目	ヴォーカル処理 歌詞を聞き取りやすくするヴォリュームオートメーションや、ピッチ修正について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	どんなに名曲を作っても、MIXによってその曲の良さが損なわれることもありますので、自分の曲をより良く表現するためにも、きちんとしたMIXの知識を習得してください。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アレンジⅡ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験16年 2005年より作曲活動をスタート。2012年に自身初のメジャーアルバムをリリース。アーティストや声優への楽曲提供、ゲームBGM制作など、活動は多岐に渡る。やや懐かしさを含んだ旋律が特徴。				
授業概要					
課題曲や自作曲を用いて、楽曲の分析、アレンジの方法を学ぶ。					
到達目標					
楽曲全体で何を表現したいのかを理解し、主旨に沿ったアレンジをする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	楽曲の分析
【前期】 6～10回目	パートの役割
【前期】 11～15回目	曲の構成・リズムパターンについて
【前期】 16～19回目	音色について① ピアノ、ストリングス
【後期】 1～5回目	音色について② ブラス、木管
【後期】 6～10回目	音色について③ オルガン、リード
【後期】 11～15回目	音色について④ エレピ、PAD
【後期】 16～20回目	曲の仕上げ方について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アレンジには正解がありません。何の音をどのように組み合わせるかで、曲の持つ表情も変わってくるので、楽しみながら音楽への理解を深めましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ミュージックセオリーⅡ	授業形態/必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験42年 1979年より数多くの有名アーティストのサポート。1985年よりCMの音楽制作を開始。 以降サポート活動をつづける傍ら作曲・アレンジも手がけ、現在も積極的に活動中。				
授業概要					
1)メロディー/フレーズとコードの関連性を学ぶ 2)テンション テンションコードを学びどの楽曲にも対応 3)色々なコードで使用できるスケールを学ぶ 4)アレンジ理論					
到達目標					
1年からの応用でさらに作曲・アレンジのための音楽知識を学び楽曲の分析・音楽制作に役立たせる クライアントなどの発注及び要望に応えることができるようにスキルアップを目指す					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	アプローチノート アプローチノート4種類を覚え重要になる音を探しコードをつける訓練
【前期】 6～10回目	メロディー問題1 コードからメロディーを制作 通過する音を指定して制作
【前期】 11～16回目	コードからメロディーを制作 通過する音を指定して制作 既成曲のコードを変更してみる メロディーの分析能力を向上させる
【前期】 17～19回目	2ndドミナントのテンション 選別の仕方と使い方 ダイアトニックスケールコードとテンションの関係性
【後期】 1～5回目	7thのスケール 7種類 その他のコードのスケール
【後期】 6～10回目	アヴェイラブルノートスケールの考え方 テンション・スケール
【後期】 11～15回目	アレンジ理論 楽曲に相応するアレンジを考える アレンジの要素8種類 各楽器の音域 4リズム～弦楽器・管楽器 特殊奏法の打ち込み方
【後期】 16～20回目	ハーモニゼーション アプローチの種類 ハーモニゼーションを使い、Voicingも考えたPiano/コーラスアレンジ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽曲制作にも楽器演奏にも、セオリーが土台に成り立ちます。アーティストやクリエイターの共通言語になるので、しっかり身につけましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	スコアライティングⅡ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
音符・記号、反復記号を正しく使って、正しく譜面の読み書きをする。 自身のトラックやトップラインの譜面を制作する					
到達目標					
レコーディングやミックスを想定し、自身で制作した楽曲の譜面を作成できる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	課題曲のスコアライティング①
【前期】 6～10回目	課題曲のスコアライティング②
【前期】 11～15回目	自身の楽曲のスコアライティング
【前期】 16～20回目	他者の楽曲のスコアから楽曲制作
【後期】 1～5回目	ヴォーカリストに提供する想定で楽曲制作およびスコア作成①
【後期】 6～10回目	ヴォーカリストに提供する想定で楽曲制作およびスコア作成②
【後期】 11～15回目	ヴォーカルディレクション・スコアの修正①
【後期】 16～20回目	ヴォーカルディレクション・スコアの修正・完成
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自身のためではなく他者のためにスコアを作成することも多くあります。 丁寧かつ正確にスコア作成を行いましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座B	授業形態 / 必・選		講義		必修	
		年次	2年次				
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	<input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経歴23年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。						
<b>授業概要</b>							
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。							
<b>到達目標</b>							
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～5回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 6～8回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 9～10回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～2回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 3～5回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 6～8回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 9～10回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	キーボードワーク	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	キーボードコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験9年 2012年TV出演をきっかけにプロミュージシャンとしての活動をスタート。ヴィジュアル系バンドへの加入を発表。その後はサポートミュージシャン、作曲家、アレンジャーとしての活動を開始。様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。</p>				
授業概要					
テンポやリズムを意識して、ステージパフォーマンスやDAWの打ち込みに対応できる演奏技術を学ぶ。					
到達目標					
独奏ではなく、仕事(PCや他パートとの演奏)で通用するスキルを身につける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～7回目	フィンガートレーニング リズムトレーニング
【前期】 8～14回目	Logic Pro Xでのキーボード活用方法 音の長さについて
【前期】 15～20回目	バックキックと単音弾き
【後期】 1～6回目	アドリブ(即興)
【後期】 7～12回目	ソロパート演奏実践
【後期】 13～19回目	アンサンブルを想定した音作りと演奏実践
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	キーボードの演奏方法を身につけると、DAWによる楽曲制作の効率も上がります。トレーニングを怠らず実践しましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	課題曲制作Ⅱ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験41年 1980年メジャーデビュー。日本を代表するロックキーボードプレイヤーであり、コンポーザーでもある。多くのロック系アーティストのライブ、レコーディングに参加。				
授業概要					
DAWソフトを有効に使うためのレクチャー、アドバイスをを行う。					
到達目標					
与えられたテーマ(課題)に沿った楽曲制作が出来るようになることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	自由課題提示。試聴、アドバイス。
【前期】 6～10回目	提案した企画からのトラック制作。アレンジも考える。
【前期】 11～15回目	完成した楽曲を試聴。アドバイスをする。
【前期】 16～20回目  【後期】 1～19回目	新たな曲課題を提案し制作する。一定期間後、試聴する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽曲制作の仕事は、自分の好みだけではなく、クライアントの依頼を達成して初めて成り立ちますので、与えられたテーマから想像を膨らませて自分なりの楽曲が作れるようになりましょう。
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	Track Making II		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験15年                  大学をピアノ科で入学後、在学中から活動を開始。作編曲家として多くの映画、映像作品の音楽を制作の他、海外オーケストラのアレンジ等に関わる。ピアニストとして活動する傍ら、電子音楽家としても音楽イベントの主催と活動は多岐にわたる。</p>				
授業概要					
<p>Logic Pro Xを中心とした講義を行う。                  楽曲のアレンジ方法を学び、実際に課題曲をDAWでアレンジする                  ポップスの楽曲分析を行い、日本、海外と比べたりと現代の制作術を学ぶ</p>					
到達目標					
より短い時間での制作方法を学び、フレキシブルに要望に対応できる制作能力を養う					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	SNS等のDAW関係の情報アカウントの紹介や、音楽系APPの紹介 簡単なメロディーを現代ポップスにアレンジし、DAWで曲制作を行う
【前期】 6～10回目	ipadとPCを連携したデジタルなパフォーマンス、デジタル的なアプローチの曲を分析
【前期】 11～15回目	コンペティションイベントに向けての楽曲制作、およびプレゼン準備
【前期】 16～20回目	簡単な対位法を習得し、映画等で使われているストリングスのアレンジを楽曲分析
【後期】 1～5回目	短期間でクライアントのオーダーに沿うための楽曲制作
【後期】 6～10回目	映像制作
【後期】 11～15回目	イベントの向けの作品制作
【後期】 16～20回目	授業で学んだ様々なジャンルを自分なりに混ぜ、自らが思う新しい音楽を制作
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	授業は主にLogic Pro Xで進めていく為、自身の違うDAWを主体で使用している場合、自身のPCを持参し、同じ内容を履修すること
使用教科書	授業内容に合わせてプリントを配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAWⅡ	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～3回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
4～6回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
7～9回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
10～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～19回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏ができずともDAWを用いて楽曲制作を行うことができる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映像制作	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	2年次	年間単位数	2単位
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
iPadを用いた動画制作の方法を学び、課題テーマに沿った映像や自身でディレクションした映像の制作を行う。					
到達目標					
動画制作における機器の基本操作方法を習得する 自身のアイデアを撮影し、それを映像として完成させる					

授業計画・内容	
1～3回目	iPadおよびiMovieの基本操作について
4～6回目	複数の映像素材を使用したエディット練習
7～9回目	課題テーマに沿った映像作品の制作
10～12回目	課題テーマに沿った映像作品の授業内発表
13～16回目	自由課題による映像作品の制作
17～19回目	自由課題による映像作品の授業内発表
評価方法	授業内発表の評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	簡単なプロモーションムービーやミュージックビデオなど、動画制作の第一歩としての履修を前提とする。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映画鑑賞	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	19回(38単位時間)	2年次	年間単位数
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1992年にCDデビュー。国内外でライブ活動を行い、テレビ・ラジオなどのメディアにも出演。著書「バンド・ボーカル読本」を発売し、近年はソロ活動やコラボバンドのリードヴォーカリストとしても活動中。				
授業概要					
エンタテインメントに関連する映像作品の鑑賞を通じて、脚本や撮影方法の工夫を学ぶ。					
到達目標					
教材として扱う映画作品の注視すべきポイントを知ったうえで鑑賞し、その手法を知る。感受性が豊かになることで、自身の芸能活動におけるクリエイティビティを広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	作品① 鑑賞とリアクションペーパーの提出
4～6回目	作品② 鑑賞とリアクションペーパーの提出
7回目	ディスカッション「名作映画が名作とされているのはなぜか」
8～10回目	作品③ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
11～13回目	作品④ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
14回目	ディスカッション「今まで鑑賞した映画作品の中で一番好きな作品とその理由」
15～17回目	作品⑤ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
18～19回目	作品⑥ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
評価方法	各作品におけるリアクションペーパーの評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	映画には音楽・演技・ダンスなど様々なエンタテインメントが使用されている。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択セルフスタイリング	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 スキンケア、メイクの基礎から応用、セルフスタイリングなどを指導。特殊メイク、エアブラシメイクを習得し、音楽の現場を主にミュージシャン、アーティスト、声優のヘアメイクを担当。撮影、イベント、舞台など、多方面で活躍している。				
授業概要					
自身の肌質や髪質を知り、各自に適したヘアスタイリングやメイクアップ方法を学ぶ。					
到達目標					
スキンケアやヘアケアの方法を習得する。 オーディションやイベント時のセルフスタイリング方法を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	肌ケア、肌トラブルについての講義を通して、スキンケア方法を学ぶ。
4～6回目	メイクアップの基礎知識とナチュラルメイクの方法を学ぶ。
7～9回目	基礎メイクをベースにした応用メイクを学ぶ。
10～12回目	ヘアアレンジ基礎として、ヘア道具やスタイリング剤の扱い方とヘアアレンジのベース作りを学ぶ。
13～16回目	基礎をベースにした応用ヘアアレンジ方法を学ぶ。
17～19回目	ヘア、メイク応用実技 自分に合ったバランスの良いメイク、ヘアスタイルを完成させる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	我流のメイクやヘアアレンジを続けていると、肌や髪を痛める原因にもなりますので、この授業を機に正しい方法を身に付けてください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ボディメイキング	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験25年 フィットネスインストラクターとしてトレーニング指導を行う。また、モデルとして雑誌やCM、TV出演。スポーツ施設受託運営、出張パーソナルトレーニング、スポーツイベント企画を行う会社を運営も手掛ける。				
授業概要					
人間の身体の仕組みや、効率の良い筋力トレーニングや体幹トレーニングの方法を学ぶ。					
到達目標					
どのようなトレーニングがどのような効果を生むのかを知る。 各種トレーニングを習慣化する。					

授業計画・内容	
1～3回目	骨格・骨格筋の知識を取得&基本姿勢を作る為のホームトレーニングパターン
4～6回目	トレーニング原理・原則による実技(目標・目的に応じたトレーニング法)
7～9回目	体幹を意識した自重トレーニング理論・実技&ストレッチの基本～応用
10～12回目	セルフボディーケア(ゆるみ・こわばり調整)器具を使用するトレーニング方法
13～16回目	ダイエットに関する理論&器具を使ったサーキットトレーニング(脂肪燃焼メイン)
17～19回目	自重スーパーサーキット法を用いた高負荷トレーニング(心肺持久力・脂肪燃焼メイン)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティスト・俳優・声優などの芸能活動における基礎となるトレーニング方法を教示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キャリアプログラム	授業形態 / 必・選		講義	選択
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Microsoft OfficeソフトやおよびAdobeのデザインソフトについて学ぶ					
到達目標					
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する Microsoft OfficeおよびAdobeのデザインソフトの使用方法を習得する					

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Microsoft Office (Word) の使用方法の習得と実践
11～15回目	Microsoft Office (Excel) の使用方法の習得と実践
16～19回目	IllustratorおよびPhotoshopの使用法の習得と実践
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲に対するの完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。</li> <li>・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。</li> </ul>
4～6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。</li> <li>・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。</li> <li>・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。</li> </ul>
7～9回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。</li> <li>・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。</li> </ul>
10～12回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。</li> <li>・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。</li> </ul>
13～16回目	曲に対するの、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～19回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルⅡ	授業形態/必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験32年                  ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。</p>				
<b>授業概要</b>					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
<b>到達目標</b>					
カラオケのレジャー感覚に留まらず、自己表現のとしての意識を持たせる。 もっとうまく歌いたいという向上心を持たせる。 1曲フルコーラスで歌えるようにする。					

授業計画・内容	
1～3回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
4～6回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
7～9回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
10～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～19回目	今までの復習 合同発表会(これまで身に付けたスキルを用いて実践する)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギターⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。</p>				
授業概要					
<p>ギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。</p>					
到達目標					
それぞれの用途に対応したギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明 オープンコードの習得
4～6回目	パワーコードの習得 チョーキング・ソロフレーズの習得
7～9回目	オクターブ奏法 サウンドメイキング講座
10～12回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。 8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
13～16回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。 主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
17～19回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。 アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験41年 有名アーティストのさまざまなステージ、レコーディング、サポートを行う。音楽雑誌にて、奏法解説などを連載。教則本もスラップ、5弦などの専門書など多数執筆。				
授業概要					
ベースの演奏に必要な技術、知識を習得する。 また、演奏を通してリズム感を培う。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したベースの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	チューニングのやり方。(各弦を何の音階に合わせるか等) 指板の説明。 右手の2フィンガーピッキング。
4～6回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
7～9回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
10～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメロノームと一緒に演奏。 ピック奏法。リズムトレーニング(シンコペーション等の特殊なリズムにも挑戦)
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲(リフモノ含む)をメロノームと一緒に演奏。 スラップ奏法等の特殊な奏法に挑戦。
17～19回目	簡単なリフ等を演奏。 楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～3回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
4～6回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート: 様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
7～9回目	フィルイン: 8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。 16ビート: 16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	フィルインとしてアクセントストロークを8ビート、16ビートのリズムパターンに入れる。 シャッフル: リズムの取り方、イーヴンとバウンスの違い。
17～19回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
<b>授業概要</b>					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 専門学校卒業後、アーティストのバックダンサーを中心にキャリアをスタート。 現在ではアイドルグループのコレオグラファーとしても活躍。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～3回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
4～6回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
7～9回目	音楽やリズムに合ったからの動かし方を学ぶ。
10～12回目	課題曲および振り付けを使用して練習する。
13～16回目	振り付けをいかした身体の魅せ方を習得する。
17～19回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験・発表会、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ダンスを通して身体を動かす楽しさやリズムをとることの大切さを学ぶ。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。